

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標2_健康・福祉】

施策 2-1_健康づくりと医療体制の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
2-01-01	地域と一体となった健康づくりの推進	04010_01	健康都市づくり推進事業
2-01-01	地域と一体となった健康づくりの推進	04010_02	健康ポイント助成事業
2-01-01	地域と一体となった健康づくりの推進	04247_01	骨髄バンクドナー支援補助金
2-01-01	地域と一体となった健康づくりの推進	04251_01	健康プログラム事業
2-01-01	地域と一体となった健康づくりの推進	04263_01	健康政策企画調整費
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04017_03	予防接種事業
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04017_04	予防接種費用助成費補助金
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04203_03	健康相談
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04203_04	がん検診等
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04203_06	人間ドック
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04225_01	精神保健推進事業
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04234_01	食育推進事業
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04259_02	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種事務費
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	10569_01	小中学校フッ化物洗口事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	03576_01	福祉施設PCR検査等支援事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04013_01	救急医療体制運営事業委託
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04013_02	休日夜間急患センター運営事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04013_04	休日夜間急患センター運営補助
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04070_01	大島診療所維持管理事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04070_02	大島診療所運営補助
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04173_01	別子山診療所維持管理事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04173_02	別子山診療所運営補助
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04242_01	新居浜市医師確保奨学金貸付事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04255_01	新居浜市歯科衛生士確保奨学金貸付事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04257_01	地域医療対策強化事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04268_01	産科医等確保支援事業補助金
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04269_01	救急医療施設広域運営事業

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04010_01		
事業名(行目名称)		健康都市づくり推進費	細事業名	健康都市づくり推進事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	地域と一体となった健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	117,439人		
	手段(どうやって)	「健康都市づくり推進員」として2年任期で73名を委嘱し、毎月研修会を開催し、地域の健康づくりリーダーとして育成する。健康寿命の延伸を目指して、関係機関が緊密に連携し、第2次元気プラン新居浜21後期計画及び第2次新居浜市食育推進計画を推進する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民の健康寿命の延伸を目指して、健康都市づくり推進員を行政と地域を結ぶ「健康づくりリーダー」として育成し、住民主体の健康づくりを推進し、住民全体の健康意識の向上を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		196	386	386	182	<ul style="list-style-type: none"> ○職員手当等 38千円 ○報償費 62千円 ○需用費 135千円 ○役務費 95千円 ○使用料及び賃借料 56千円 	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	196	386	386	182		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
推進員地域活動件数		目標値	500	500	4000	4000	—
		実績	414	108	70	4051	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや低い	有効性	やや低い	効率性	低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	休止・廃止する				
<p>健康都市づくり推進員の平均年齢は69.9歳と高齢化しており、アンケートの結果、推進員自身が知りたい情報は高齢者の健康に関する情報である。また、啓発先は友人、家族、近所、所属団体などで、高齢者が高齢者へ健康情報を周知する構図ができており、地域包括支援センターが行っている介護予防事業と業務内容が重複している。今後は若い世代の健康無関心層への健康情報の啓発が課題である。 令和4年度から成果指標を推進員地域活動回数から地域住民への普及啓発実績を把握するため、推進員地域活動件数に変更する。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
<p>令和5年度は令和5年6月の閉会式をもって健康都市づくり推進員の養成を休止し、若い世代の健康無関心層への健康情報の啓発方法について検討する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
<p>令和5年度は活動を休止し、若い世代の健康無関心層への健康情報の啓発方法について検討する。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04010_02		
事業名(行目名称)		健康都市づくり推進費	細事業名	健康ポイント助成事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	地域と一体となった健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	18歳以上の市民		数値	100,586人		
	手段(どうやって)	運動、減量、禁煙等の生活習慣改善や各種健診受診、健康講座等の健康づくりの取組に対しポイントを付与する。令和2年6月1日から、あかがねポイント事業に統合を図り、新規利用者の拡大と満足度の向上につなげる。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	各種健康づくり事業への参加をポイント化することにより、市民の健康意識の向上と健康づくりの取組の促進を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		190	731	731	481	○報酬 40千円 ○需用費 9千円 ○負担金補助及び交付金 682千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		190	731	731	481		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
交換申請者数(～R2) ポイント付与件数(R3～)		目標値	1000	2500	1250	2500	2500
		実績	689	1893	612	2761	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和4年9月末時点のポイント発行件数は612件で、目標値の24.4%にとどまっている。本事業及び健康づくりに関する事業の啓発が必要である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
あかがねポイント付与対象事業の1つである「健康プログラム事業」において、事業参加により歩数の増加や内臓脂肪レベル減少などの効果が得られている。翌年度はより多くの市民の健康づくり活動を促進するために、対象者人数を350人から3,000人に拡大する。それに伴い、あかがねポイント付与数が増加する見込みである。その他の当該事業においては引き続き、個々の予防や健康づくり活動に応じてインセンティブとしてあかがねポイントの付与を行う。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	B:事業の進め方の改善検討				
ポイント交換申請者数が目標値に達したため、健康づくりに関心を持ち各種事業に参加した市民が増加した。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	04247_01		
事業名(行目名称)		骨髄バンクドナー支援費		細事業名	骨髄バンクドナー支援補助金			
総合 計画	まちづくり	健康・福祉		施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	地域と一体となった健康づくりの推進		担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	新居浜市民		数値	118,521人			
	手 段 (どうやって)	市内に住所を有し、公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業においてドナー登録している者のうち、骨髄等の提供をした者に、1回につき 100,000円 骨髄等を提供した者が従事している事業所に、1人につき 50,000円						
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	骨髄または末梢血幹細胞を提供する者に対して、助成金を交付することにより、ドナーの経済的負担を軽減し、骨髄の移植の推進及びドナー登録の増加を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		150	400	400	100	○負担金補助及び交付金 400千円 骨髄等の提供をした者(個人)1回につき100千円×3人 上記の者が就業している事業所1人につき50千円×2人分		
財 源	県・国支出金	75	200	200	50			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	75	200	200	50			
IV 指 標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
骨髄等を提供した者			目標値	2	3	1	3	3
			実績	4	2	1	1	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
骨髄または末梢血幹細胞を提供する者に対して助成金を交付する事業であるため、提供者が出現して初めて事業実施が行える。行政としては今後とも骨髄バンクの重要性を広く市民に啓発し、骨髄移植等の継続的な実現を図るために今後も事業を推進していく必要がある。。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
骨髄等移植事業は、国県が推進している事業であり、血液疾患患者のために重要な事業である。年間を通しての提供件数が想定できないため、現状維持の方向で予算措置を行っておく必要がある。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
血液疾患患者のためには重要な事業であり、本年は1件のドナー提供があった。骨髄移植等の継続的な実現のため、今後も市民への啓発が必要である。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04251_01		
事業名(行目名称)		健康プログラム事業費	細事業名	健康プログラム事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	地域と一体となった健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	20歳以上の市民等在勤の方		数値	96,833人		
	手段(どうやって)	特に健康づくりに関心の低い就労層をメインターゲットとし、3~5人グループ単位で参加登録し、9月~3月の約半年間、活動量計を用い歩数競争を行う。市内3か所に設置した専用のリーダーライターで定期的に歩数や消費カロリー、体組成を可視化し、健康ポータルサイトで競い合う。プログラム前後に体重や体組成の変化、アンケート調査による行動変容を評価する。そのほかバランス食などの食生活に関する情報を提供する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	若い世代(特に40~50歳代を重点対象者とする)が運動に取り組みやすい環境を整備し、運動習慣の定着や活動量の増加を図り、健康寿命の延伸に資する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		8,606	7,941	7,941	8,872	<ul style="list-style-type: none"> ○職員手当等 243千円 ○報償費 52千円 ○旅費 155千円 ○需用費 38千円 ○役務費 68千円 ○委託料 7,285千円 ○負担金補助及び交付金 100千円 	
財源	県・国支出金	5,685	5,810	5,810	7,154		
	地方債		0	0			
	その他	405	350	350	350		
	一般財源	2,516	1,781	1,781	1,368		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
参加者の週1回以上の運動実施率		目標値	0	0.65	0.65	0.65	2999
		実績	0	0.613	0	0.64	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する				
<p>R4年度申込者数は定員を上回っており市民ニーズがある。また、市民の運動実施率をあげ健康課題を解決するためには、多数の人が参加できる事業へ変更することが望ましい。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>効率性を考慮し、多数の市民が参加できるアプリ等の他の機能を使った事業に変更し、周知啓発及び運動習慣の定着や生活習慣の改善につなげる。令和5年度より健康アプリを導入し実施するため、成果指標名は「健康アプリ登録者数」に変更する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
<p>週一回以上の運動スポーツ実施率が事業実施前47.7%が事業実施後64.1%になり、本事業を通してスポーツ実施率が増加する等の成果が見られた。令和5年以降は健康アプリに移行し参加者数を増加させ、更に多くの市民の健康づくりに繋げる。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	04263_01	
事業名(行目名称)		健康政策企画調整費		健康政策企画調整費			
総合計画	まちづくり	健康・福祉		健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	地域と一体となった健康づくりの推進		担当課 健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民			数値	116052人	
	手段(どうやって)	KDB(国保データベース)システムを活用し、市の健康課題の調査分析しながら、市内の各種健康関連事業の連携・調整及び必要な新規事業の企画を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民協働による健康都市づくりを推進し、健康寿命の延伸を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	<ul style="list-style-type: none"> ○旅費 128千円 ○需用費 340千円 ○役員費 19千円 ○使用料及び賃借料 172千円 ○負担金補助及び交付金 148千円 	
経費			807	807	322		
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		807	807	322		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
健康寿命:男性 (KDBシステムより算出)			目標値		79.2	79.2	79.3
			実績		79.2	79.2	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種業務も並行して行っているため、十分な調査分析が実施できていない。 各関係機関と連携し、継続して実施していく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
健康寿命の延伸のため単年でなく、中長期的な取り組みが必要。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
十分な調査分析が実施できていない部分はあるが、市の健康課題はデータから出ているため、今後、多方面からの分析は必要。 健康寿命の延伸のため、令和5年度は、より市内の各種健康関連事業の連携・調整を図り、一体的に市の健康課題に取り組む。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04017_03		
事業名(行目名称)		感染症等予防費	細事業名	予防接種事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	乳幼児、児童、生徒、高齢者		数値	47,775人		
	手段(どうやって)	予防接種法に基づきA類疾病、B類疾病ともに県内、市内の医療機関に委託し個別接種を実施した。A類疾病の定期接種は、予防接種手帳を生後2か月前に個人通知するとともに、未接種者には個別通知等接種勧奨を行った。B類疾病の高齢者肺炎球菌予防接種は、誤接種にならないよう対象者に接種券を個別通知し、65歳、70歳の未接種者に再通知を行った。また予防接種率の向上と感染症予防のため学校等に啓発文、市政だより、ホームページ、出前講座等で正しい知識と情報の提供に努めた。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	予防接種を実施することにより、感染症の蔓延を防ぐ。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		322,379	388,490	388,490	330,460	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 3,677千円 ○職員手当等 652千円 ○共済費 739千円 ○報償費 45千円 ○旅費 101千円 ○需用費 133,991千円 ○役務費 2,939千円 ○委託料 246,346千円 	
財源	県・国支出金	5,502	3,299	3,299	4,478		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	316,877	385,191	385,191	325,982		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
予防接種率(二種混合)		目標値	85	85	85	85	85
		実績	82.6	74.7	45.8	63.9	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>予防接種法に基づき、予防接種を実施することにより、伝染や感染の恐れがある疾病の蔓延を防止する。乳幼児・学童を対象したA類の予防接種については、未接種者に個別通知等接種勧奨を行っている。また、令和4年度より、子宮頸がんワクチン接種が積極的勧奨になった。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
<p>令和4年度から開始した、子宮頸がんワクチン接種が定期接種者と積極的勧奨の差控えにより接種機会を逃したキャッチアップ接種対象者になり、接種回数が増える。また、子宮頸がんワクチン予防接種を自費で接種した者に対して、償還払いを開始したので、予算が拡大する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>A類疾病の定期予防接種は、適正な時期に接種するように勧奨を行ったが、昨年より低い接種率となった。次年度も引き続き、予防接種の周知啓発を行い、接種率の向上に努める。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04017_04			
事業名(行目名称)		感染症等予防費	細事業名	予防接種費用助成費補助金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	県外で予防接種を受ける乳幼児で、予防接種費用助成の申請者		数値	53人			
	手段(どうやって)	愛媛県外で定期予防接種を受ける場合、事前に「予防接種実施依頼書」を交付するため、それに合わせて予防接種費用助成について説明する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	子育て世代の経済的負担の軽減を図り、子どもの健康保持、感染症の発生および蔓延を予防する。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		700	1,456	1,456	538	○負担金補助及び交付金 1,456千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	700	1,456	1,456	538			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
県外予防接種補助金交付者数(実人数)			目標値	20	20	10	20	20
			実績	3	16	2	12	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
母親の里帰り出産等の理由で、県外で定期接種をする人は、コロナ禍や年度により、増減の幅が大きい。子宮頸がんワクチン予防接種が積極的勧奨になり、県外での接種希望の依頼が増えた。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
里帰り出産や就職進学等のため、県外の医療機関で自己負担により接種を受けた方の定期予防接種の費用の一部を助成することにより、経済的負担の軽減と伝染病の蔓延予防のため、継続実施が必要な事業である。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
里帰り出産や就職進学等のため県外の医療機関で自己負担により予防接種を受けた方の定期予防接種の費用の一部を助成をすることにより、経済的負担を軽減し、定期予防接種の接種率向上に有効である。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04203_03		
事業名(行目名称)		健康増進対策費	細事業名	健康相談			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	40歳以上の市民	数値	74,857人			
	手段(どうやって)	保健師・管理栄養士・歯科衛生士等の専門職による生活習慣病予防のための健康教育・健康相談を実施					
	目的(どんな状態にしたいのか)	生活習慣病予防等について、正しい知識の普及を図り自らの健康は自らが守るという認識と自覚を高め、壮年期からの健康の保持・増進に資する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		5,512	3,173	3,173	2,927	○報酬 1,657千円 ○職員手当等 302千円 ○共済費 317千円 ○報償費 58千円 ○旅費 116千円 ○需用費 600千円 ○役員費 8千円 ○使用料及び賃借料 115千円	
財源	県・国支出金	660	1,074	1,074	732		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	4,852	2,099	2,099	2,195		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
健康教育・健康相談実施人数		目標値	2000	6000	3000	6000	6000
		実績	638	6625	2732	8068	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する				
体組成計を用いた専門職による健康相談や集団健診の待合の時間を利用した健康教育、出前講座などにより、運動や栄養などの生活習慣の見直しや生活習慣病の発症予防に繋げ、健康意識の向上を図っている。また新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、新居浜市医師会、新居浜市歯科医師会と連携し、乳がん、歯周疾患をテーマとした医師講演会を実施し、疾病に関する正しい知識や検診の重要性について啓発していく。来年度は、新居浜市の健康課題の一つである20～60歳代の肥満予防対策を行うために、就労層への対象者の拡大を検討する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
新居浜市の健康課題である壮年期男性の肥満予防対策として、協会けんぽ、国保課との連携し、企業を対象とした健康相談・健康教育を新たに実施していく。体組成計を用いた健康相談については縮小し、体組成計を常時設置して市民の利便性を図る。医師講演会、出前講座、がん併設健康教育など引き続きポピュレーションアプローチによる市民の健康意識の向上を図っていく。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
体組成計を用いた、管理栄養士・保健師等の専門職による健康相談や集団健診の待合の時間を利用した健康教育、出前講座などにより、運動や栄養などの生活習慣の見直しや生活習慣病予防に関する正しい知識の普及啓発を行った。また、新居浜市医師会、新居浜市歯科医師会と連携し、乳がん、歯周疾患をテーマとした医師講演会を実施し、がん予防の正しい知識や、検診の重要性について普及啓発を行い、個々の健康管理能力の向上につなげた。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04203_04		
事業名(行目名称)		健康増進対策費	細事業名	がん検診等			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	40歳以上の市民、子宮頸がん検診は20歳以上の女性		数値	85,386人		
	手段(どうやって)	検診機関に業務委託し集団及び個別検診を実施している。総合健診として、各がん検診、特定健診を同時に実施できるように集団健診日程を設定する。また、休日検診の回数増設、検診場所の見直しを図る等、市民の利便性を考慮する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	がん等の生活習慣病やその危険因子を早期に発見し、適切な保健指導や早期治療に結びつけることにより生活習慣病等を予防する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		86,398	105,776	105,776	87,125	<ul style="list-style-type: none"> ○報酬 2,781千円 ○職員手当等 863千円 ○共済費 342千円 ○報償費 30千円 ○旅費 51千円 ○需用費 747千円 ○役務費 4,120千円 ○委託料 96,830千円 ○使用料及び賃借料 12千円 	
財源	県・国支出金	4,502	2,141	2,141	1,742		
	地方債		0	0			
	その他	0	1	1	0		
	一般財源	81,896	103,634	103,634	85,383		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
集団けんしん受診者数		目標値	6000	8000	4000	8000	8000
		実績	6575	7803	3617	8214	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>昨年度から引き続き、感染予防対策を行い健診を実施。昨年度と比較し上半期受診者数が20%増加し、コロナ禍以前の水準に戻りつつある。若年世代の受診率は依然として低い水準にあるので、受診勧奨だけでなく、がん検診の意義や必要性についての周知が課題である。休日健診、特定健診との同日実施等を行い、市民の方が受けやすい環境づくりを進めていく。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>健康寿命の延伸、がんによる死亡の減少を図るため、国の動向や新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、引き続き感染予防対策を行いながら事業を実施する。健診会場の見直しを行い、より多くの方が健診を受診できる環境整備に努める。地域のフリーペーパーや、LINE等のSNSを用いた周知啓発を行い、新規受診者の獲得や若年世代の受診率の向上を図る。また受診者にアンケートを実施し、効果的な周知啓発方法の検証を行う。精密検査対象者へは、電話勧奨や個別通知を行い、精密検査受診率の向上を図る。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>コロナ禍における受診控えが収まったことや、WEB予約の通年導入により受診者数の増加につながった。受診環境の整備や受付時間の割り振りを行い、スムーズな運営が実施できるよう努めた。来年度以降のさらなる受診者数の増加に向けて、アンケート結果を参考にしながら、効率的な周知啓発を来年度以降も継続して行っていく。また、精密検査の受診率の向上のため、精密検査の重要性の周知や、精密検査未受診者に対する受診勧奨を行っていく。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04203_06		
事業名(行目名称)		健康増進対策費	細事業名	人間ドック			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	40歳以上の新居浜市市民(国保・後期高齢者医療被保険者、その他の保険加入者のうち健診を受ける機会がない人)		数値	74,857人		
	手段(どうやって)	新居浜市医師会へ委託して実施。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	循環器疾患及びがん等について、早期発見・早期治療のみならず適切な事後指導を実施し市民の健康づくりに役立てる。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○委託料 4,407千円	
経費		8,578	4,407	4,407	7,343		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	8,578	4,407	4,407	7,343		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
受診者数		目標値	350	350	300	300	300
		実績	253	292	143	276	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや低い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>健康増進法に基づき、対象者の年齢を30歳から40歳以上に、かつ健診を受ける機会がない市民に変更し、医師会との協議で定員300名に増枠した。がんなどの生活習慣病予防のための総合的な健診であり、予定している日程はほぼ定員が満員になっており、市民の需要は高い。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
<p>次年度も同様、がんなどの生活習慣病の早期発見・早期治療を目的に事業を実施する。市民の利便性や要精密検査受診率の向上のために、医師会へ申込受付から医療機関受診勧奨業務まで一括した業務を委託する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>健康増進法に基づき、40歳以上かつ健診を受ける機会がない市民に、がんなどの生活習慣病予防のための総合的な健診であり、予定している日程はほぼ定員が満員になっており、市民の需要は高いので継続して事業を実施する。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04225_01		
事業名(行目名称)		精神保健推進費	細事業名	精神保健推進事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	18歳以上の市民	数値	98,901人			
	手段(どうやって)	①ロビー展示や健康教育を通して、心の健康づくりに関する正しい知識の普及啓発を行う。 ②心の健康相談など専門家による相談の場を設ける。 ③地域での見守り体制を充実させるため、ゲートキーパー養成を行う。 ④精神障害者家族教室を開催し当事者家族のサポートを行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民が自分に合ったストレス解消方法を見つけ、心の不調を感じた場合は、必要に応じて専門家に相談できるよう相談支援体制を充実させる。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		417	1,689	1,689	1,485	○報酬 753千円 ○共済費 133千円 ○報償費 272千円 ○旅費 89千円 ○需用費 411千円 ○役務費 13千円 ○負担金補助及び交付金 18千円	
財源	県・国支出金	177	765	765	685		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	240	924	924	800		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
こころの健康教育・相談の参加者数		目標値	700	350	350	350	350
		実績	298	342	284	559	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
家族教室やゲートキーパー養成講座については、新型コロナウイルス感染症感染警戒期においても、感染症対策を講じることで計画通り実施することができている。 家族教室については、家族・当事者に加えて一般市民も参加できるように対象者の枠を広げ、精神疾患に関する知識を幅広く普及することができ、参加者も増加した。 こころの相談については、今後もオンライン相談も利用可能であることも併せて、SNS等各種媒体を用いて周知していく。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
「第2次元気プラン新居浜21後期計画」「第2次新居浜市食育推進計画」「新居浜市自殺対策計画」の評価及び次期計画策定のために、市民アンケート調査・集計・分析を実施する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
自殺予防について広く市民に理解してもらうために、SNSやHPを通した情報発信を行い、自殺予防週間に合わせてロビー展示や相談窓口一覧の配布などの周知併発を行った。 また、ゲートキーパー養成講座を実施し、自殺予防に関する知識やゲートキーパーとしての役割について理解を深めることができた。 こころの不調を抱える人に対しては、専門家によるこころの相談を実施し、必要な支援につなぐことができた。 今後は、若年層・就労層など様々な世代での自殺対策を強化していくために、学校や企業等、関係機関と連携して取り組んでいく。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04234_01		
事業名(行目名称)		食育推進事業費	細事業名	食育推進事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民	数値	118,521人			
	手段(どうやって)	栄養士、保健師、食生活改善推進員による、健康教育・健康相談やバランス食に関する講義及び調理実習					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民一人一人が生涯を通じて健全な食生活を送り、健康で豊かに過ごすことができるようにライフステージに応じた食育講座を開催する。特に近年問題となっている若い世代の食に関する知識、調理技術の低下、朝食等の欠食に対応するために講義と調理実習を行う食育講習会を実施する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)		令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額		決算額	
経費		750	2,641	2,641	2,005		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	750	2,641	2,641	2,005		
○報酬 61千円 ○報償費 1,124千円 ○需用費 1,301千円 ○役務費 105千円 ○負担金補助及び交付金 6千円							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
幼児食育事業参加者数		目標値	775	750	850	850	800
		実績	772	821	377	725	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
新居浜市の食育を担う、食生活改善推進員等の食育ボランティア会員の高齢化により、次世代の食育の担い手が不足しているのが課題である。また、若い世代のやせや欠食、壮年期の肥満、高齢期の低栄養等、ライフステージに応じたきめ細やかな対策が必要である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
食に関する正しい知識や調理技術の伝達、また、次世代の食育ボランティアの育成を目的に、若い世代を対象とした食育料理教室を実施する。高血圧、糖尿病等の生涯を通じた生活習慣病予防のために、関係機関等と連携しローソルト&ベジプロジェクトの推進を図る。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を講じながら、食生活改善推進員と協力し、バランスの良い食事や生活習慣病予防に関する知識の普及啓発を行った。また、次世代の食育ボランティアの育成のため、若い世代対象の食育料理教室を実施し、食育ボランティアの新支部立ち上げにつながった。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04259_02		
事業名(行目名称)		新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種費	細事業名	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種事務費			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	12歳以上の市民	数値	106565			
	手段(どうやって)	ワクチン接種は、接種券の郵送・予約・接種・予防接種状況管理等の一連の流れで接種を進めていくためには、医療機関を含め、他機関との調整及び委託契約により円滑な実施に努める。また、接種率向上のためには市民に対し適切な情報の周知や予約支援等のサポートが必要となってくる。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	対象者である市民がスムーズに接種ができる体制づくりを整備することにより、接種が推進され新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐ。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○報酬 5,413千円 ○給料 3,666千円 ○職員手当等 17,473千円 ○共済費 1,992千円 ○報償費 135千円 ○旅費 202千円 ○需用費 6,300千円 ○役務費 45,484千円 ○委託料 189,543千円 ○使用料及び賃借料 9,817千円 ○備品購入費 550千円	
経費		326,543	130,967	280,575	246,111		
財源	県・国支出金	326,498	130,967	280,575	246,091		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	45	0	0	20		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
接種率		目標値	0	100	83	83	50
		実績	0	87.4	81.46	83.8	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種については、国内の感染状況及び流行中の変異株に対応した新たなワクチン開発等により、今秋冬の流行期を見据えた「オミクロン株対応ワクチン」接種の実施、小児(5～11歳)接種の努力義務化と追加接種の実施、乳幼児(生後半年～4歳)接種の実施検討、これらに伴う臨時の予防接種期間の延長が決定されており、令和4年度末まで、現状のまま引き続き接種を実施していく必要がある。</p> <p>なお、成果指標については、目標値の母数をこれまで18歳以上の人口としていたものを5歳以上の人口に修正したうえで、低年齢者がワクチン接種を避ける傾向にあること等を鑑み、目標値を下方修正する。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小				
<p>令和4年9月20日時点において、新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種の実施期間は令和5年3月31日までとされており、翌年度以降における国の実施方針が示されていない状況にある。今後、定期の予防接種に切り替わっていく可能性や、接種の終了もしくは規模縮小の可能性もあり、翌年度予算の要求方針については、国の方針等が示されてからの決定とする。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>国の方針に従い、接種券の作成及び発送、予約相談コールセンターの開設など、円滑な接種体制の構築を図り、事業を進めることができた。令和5年度も令和5年春開始接種及び令和5年秋開始接種について、関係機関との調整を図りながら、万全の体制確保に努めていくこととする。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	10569_01		
事業名(行目名称)		小中学校保健充実費	細事業名	小中学校フッ化物洗口事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	学校教育課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内小学校児童及び西中、泉川中、船木中、ひびき分校、角野中、別子中生徒		数値	22校		
	手段(どうやって)	各学校で実施するフッ化物洗口に伴う、洗口薬剤や紙コップ等の購入にかかる必要経費を負担する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	学校において集団で定期的にフッ化物洗口を実施することにより、広範囲で習慣的なむし歯予防が推進できるとともに、児童・生徒自身のむし歯予防に対する継続的な意識啓発を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		648	1,517	1,517	216	○需用費 1,517千円	
財源	県・国支出金	84	93	93	18		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	564	1,424	1,424	198		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
12歳児の1人平均むし歯数(本)DMFT指数			目標値	1	1	1	1
			実績	1.7	1.6	—	1.2
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>平成30年度まで小学校のみで実施していたが、令和元年度からは中学校4校(船木中、ひびき分校、角野中、別子中)、令和2年度からは北中学校、令和3年度からは泉川中学校で開始しており、今後も感染症対策に十分注意を払いながら、適切な実施に向けた実施方法を定着させていく必要がある。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、実施していても一時中断する等、感染状況による影響を受ける要素はあるが、引き続き、感染症対策に十分注意を払いながら実施する。 また、フッ化物洗口に使用する器具類の耐久年数は5年程度であり、計画を立て、定期的な更新を行っていく必要がある。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	D:事業の統合・廃止を検討				
<p>既にフッ化物洗口を実施している中学校6校を除く、未実施である中学校6校における今後の実施計画が未定であり、在籍校に関わらず市内全生徒に対して事業を実施することが出来ず、サービスの公平性が保てないため、令和5年度からは事業を廃止する。 なお、既に市内全児童への実施を計画している小学校16校については、別の予算費目(小学校保健費)により対応し、フッ化物洗口の実施を継続する。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	03576_01		
事業名(行目名称)		福祉施設PCR検査等支援事業費	細事業名	福祉施設PCR検査等支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内高齢者施設等	数値	1,030件			
	手段(どうやって)	高齢者福祉施設等が行った自主検査1件につき、PCR検査10,000円、抗原検査6,000円を上限に補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者施設等が施設等の職員を対象に行った新型コロナウイルス感染症自主検査費用に対する補助を行うことにより、施設等の負担を軽減し、利用者への安全なサービスの提供の確保を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		3,762	7,380	14,380	11,302	○負担金補助及び交付金 7,380千円	
財源	県・国支出金	3,762	3,690	10,690	10,338		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	3,690	3,690	964		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
施設等への検査費補助		目標値			7380000	7380000	7380000
		実績			1708000	11302000	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
市内において、依然新型コロナウイルス感染者が発生している。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に必要な自主検査費用を補助することにより施設等の負担を軽減でき、利用者への安全なサービス提供につながるため、事業を継続する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に必要な自主検査費用を補助することにより施設等の負担を軽減でき、利用者への安全なサービス提供につながった。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04013_01			
事業名(行目名称)		救急医療体制整備費	細事業名	救急医療体制運営事業委託				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	118,521人			
	手段(どうやって)	新居浜市医師会と委託契約し、事業が円滑に行われるよう調整をはかる。救急医療体制の役割を明確化し、一次、二次、三次の各機能が遂行できるように、市民に対する啓発活動を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	一次、二次の役割を明確化し、新居浜市における救急医療体制の維持確保を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		4,180	4,163	4,163	4,153	○需用費 10千円 ○委託料 4,153千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
一般財源		4,180	4,163	4,163	4,153			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
外科当番医診療人数			目標値	800	800	400	800	400
			実績	741	732	414	878	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
休日における一次救急医療を提供し、市民の安全・安心な生活に繋げると共に、救急医療の適正利用の修理啓発に努める。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
在宅当番医制により、日曜、祝日の外科の診療を行っている。今後も実施していく。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
顕在化している出務医師不足等の問題はありますが、在宅外科当番医制運営事業を継続して実施し、市民の安全安心な生活を確保する必要がある。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04013_02		
事業名(行目名称)		救急医療体制整備費	細事業名	休日夜間急患センター運営事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	121,211人		
	手段(どうやって)	新居浜市医師会と協議しながら、初期救急事業が円滑に運営できるように維持管理の調整を行った。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市における一次救急医療体制の確保を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,476	1,977	1,977	1,491	○需用費 500千円 ○役務費 4千円 ○委託料 183千円 ○使用料及び賃借料 1,290千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	1,476	1,977	1,977	1,491		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
施設整備		目標値	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
施設の老朽化への対応として、急患センター建替えが急務となる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
一次救急である休日夜間急患センターを維持し、適正に管理することで、市民の安心安全を確保する。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
市民の安心安全のため、一次救急である休日夜間急患センターを適正に管理し、救急診療業務を継続する必要がある。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04013_04		
事業名(行目名称)		救急医療体制整備費	細事業名	休日夜間急患センター運営補助			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	121,211人		
	手段(どうやって)	新居浜市医師会と協力し、事業が円滑に行われるよう調整を図る。救急医療体制の役割を明確化し、一次、二次、三次の各機能が遂行できるよう、市民に対する啓発活動を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	一次、二次の役割を明確化し、新居浜市における救急医療体制の維持確保を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 74,948千円	
経費		111,862	74,948	131,621	120,646		
財源	県・国支出金	35,976	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	75,886	74,948	131,621	120,646		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
休日夜間急患センター診療日		目標値	365	365	183	365	366
		実績	365	365	183	365	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
休日・夜間における一次救急を提供し、市民の安心安全な生活に繋げると共に、救急医療の適正利用の周知啓発に努める。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
救急医療体制整備のため、今後も運営費用に係る赤字分を補助する。受診者数の減少による医療収入の減少が予想されること及び令和5年度から急患センターの建替えに伴う備品等を購入する必要があるため、予算の増額が必要となる。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
市民の安心安全な生活を確保する必要があることから、休日夜間急患センター事業を継続して実施していく。しかし、出務医師の不足及び高齢化、赤字補填額の増大などの問題があることから、今後事業規模・内容について見直しを検討していく必要がある。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	04070_01	
事業名(行目名称)		大島診療所管理費		細事業名 大島診療所維持管理事業			
総合 計画	まちづくり	健康・福祉		施策 健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保		担当課 健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	大島地区住民			数値	200人	
	手 段 (どうやって)	大島診療所管理運営補助金を新居浜市医師会に補助し運営するにあたり、診療所の清掃業務を地元婦人会に委託し、急患搬送業務を自治会に委託した。					
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	大島診療所業務が円滑に運営でき、大島地区市民の地域医療の確保と健康を守る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		640	762	762	649	○需用費 185千円 ○役員費 44千円 ○委託料 533千円	
財 源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	640	762	762	649		
IV 指 標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
施設数			目標値	1	1	1	1
			実績	1	1	1	—
V 事 中 評 価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
大島地区の地域医療の拠点であり、診療業務を円滑に実施するため適正管理を行う必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
離島における市民の健康管理のために必要不可欠な医療施設であるため、引き続き、維持管理が必要である。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
大島地区住民の健康管理のため、開設している大島診療所において、診療業務が円滑に実施できるように診療所の維持管理を適正に行う必要がある。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2022	04070_02		
事業名(行目名称)		大島診療所管理費		細事業名	大島診療所運営補助			
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保		担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	大島地区住民			数値	200人		
	手段(どうやって)	大島診療所管理運営補助金を新居浜市医師会に補助し、週2回の診療(内科、外科各1回)を確保する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	大島地区住民の健康管理のため、診療所の維持管理を適正におこなう。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		5,504	7,670	7,670	6,109	○負担金補助及び交付金 7,670千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	5,504	7,670	7,670	6,109			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
診療日			目標値	50	50	25	51	50
			実績	50	51	25	52	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
島民の減少及び高齢化により診療所は赤字ではあるが、健康管理に重要な医療施設であるため維持は必要である。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
島民の健康管理のため、新居浜市医師会が開設する大島診療所は不可欠である。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		B:事業の進め方の改善検討					
地域医療の拠点を維持するため、地域住民の減少等による診療所の赤字分を補助金として補填することにより、新居浜市医師会による大島診療所の運営を維持する必要がある。福祉医療MaaSを導入することにより、事業の一部を見直すことが出来ないか新居浜市医師会と検討していく必要がある。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04173_01		
事業名(行目名称)		別子山診療所管理費	細事業名	別子山診療所維持管理事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区住民		数値	150人		
	手段(どうやって)	診療業務を新居浜市医師会に委託し、またその後の保健指導を保健師活動に結びつける。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子山地区の住民の健康管理に努め、地域医療・保健サービスの拠点とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		33	36	36	33	○役務費 36千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	33	36	36	33		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
施設数		目標値	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
別子山地区の地域医療の拠点であり、診療業務を円滑に実施するため適正管理を行う必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
別子山地区における市民の健康管理のために必要不可欠な医療施設であるため、引き続き、維持管理が必要である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
別子山地区の地域医療の拠点であり、診療業務を円滑に実施するため適正管理を行う必要がある。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04173_02		
事業名(行目名称)		別子山診療所管理費	細事業名	別子山診療所運営補助			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区住民		数値	150人		
	手段(どうやって)	診療業務を新居浜市医師会に委託し、月4回(内科3回、外科1回)の診療業務を確保する。またその後の保健指導を保健師活動に結びつける。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子山地区の住民の健康管理に努め、地域医療・保健サービスの拠点とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		6,143	8,210	8,210	6,513	○負担金補助及び交付金 8,210千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	4,000	4,000	4,000	4,000		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	2,143	4,210	4,210	2,513		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
診療日		目標値	51	50	24	47	50
		実績	49	49	24	47	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
別子山地区の人口減少及び高齢化により診療所は赤字ではあるが、健康管理に重要な医療施設であるため維持は必要である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
別子山地区の健康管理のため、新居浜市医師会が開設する別子山診療所は不可欠である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		B:事業の進め方の改善検討				
地域医療の拠点を維持するため、地域住民の減少等による診療所の赤字分を補助金として補填することにより、新居浜市医師会による別子山診療所の運営を維持する必要がある。福祉医療MaaSを導入することにより、事業の一部を見直すことが出来ないか新居浜市医師会と検討していく必要がある。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04242_01		
事業名(行目名称)		新居浜市医師確保奨学金貸付事業費	細事業名	新居浜市医師確保奨学金貸付事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	奨学金貸付申込者		数値	1人/年		
	手段(どうやって)	市内の医療機関で働く意志のある医学部生に入学又は修学に要する資金貸し付け、一定の期間、市内の医療機関で勤務することにより奨学金の返還を免除する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市内の医療機関で勤務する若い医師を確保する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		10,164	12,500	12,500	7,200	○貸付金 12,500千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	10,164	12,500	12,500	7,200		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
新規貸付人数		目標値	3	1	1	1	1
		実績	1	2	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和4年度の募集を令和4月1日から令和4年9がつ30日まで行っていたが、応募がなかったため、引き続き追加で募集している。市内の施設及び四国の4国立大学医学部に周知を行っている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
医師の高齢化及び医師不足の解消のため、毎年1名の奨学生を確保するための予算を維持する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
令和4年度は新規貸付者がなかったが、将来的な医師確保のため、継続的に奨学生を確保できるよう今後も計画通りに事業を進める必要がある。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04255_01			
事業名(行目名称)		新居浜市歯科衛生士確保奨学金貸付事業費	細事業名	新居浜市歯科衛生士確保奨学金貸付事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	修学資金貸付申込者		数値	5人/年			
	手段(どうやって)	市内の歯科衛生士の養成施設に在学する方に、修学資金を貸し付け、一定の期間、市内の歯科医院で勤務することにより、資金の返還を免除する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	市内の歯科医院で勤務する歯科衛生士と地域医療の充実、高校卒業後の新たな選択肢として若年層の転出抑制、定住促進を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		840	1,920	1,920	960	○貸付金 1,920千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	120	0	0	0			
	一般財源	720	1,920	1,920	960			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度	
貸付人数			目標値	0	5	5	5	5
			実績	0	3	1	1	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
募集人員5名に対し、申込みのあった1名に貸付けを決定した。募集人員に満たないため、追加で募集を行っているが申込みはない。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
市内の歯科衛生士不足の解消と地域医療の充実を図るため、毎年5名の新規修学生の確保のための予算を維持する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
令和4年度は新規貸付が1名だったため、令和5年度分からは早期に貸付けを決定できるよう募集要項の見直しを行った。歯科衛生士不足の解消のため今後も対象者に周知を図り、継続的に事業を実施する。								

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04257_01		
事業名(行目名称)		地域医療対策強化事業費	細事業名	地域医療対策強化事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	地域医療中核医療機関		数値	4		
	手段(どうやって)	新居浜市と医師会及び地域医療の中核を担う4病院(新居浜県立病院、住友別子病院、十全総合病院、愛媛労災病院)の協働により新居浜市に愛媛大学医学部の寄附講座を開設する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	将来にわたって市民が安心して医療を受けることができる地域医療提供体制の確保と医療従事者の育成の場の提を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			25,000	25,000	25,000	○寄附金 25,000千円	
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他		15,000	15,000	15,000		
	一般財源		10,000	10,000	10,000		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
寄附講座設置数		目標値			1	1	1
		実績			1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和4年4月1日、愛媛大学医学部との協定により十全総合病院を拠点とする「難病・高齢医療学講座」を設置。寄附講座の開設により市民にとってはより専門性の高い治療が外来と入院を通じて受けることができている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
寄附講座は5年間の設置であるため、引き続き予算を維持する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
令和4年度に十全総合病院をサテライトとする「難病・高齢医療学講座」が開設され、市民にとってより専門性の高い治療を受けることができている。今後は愛媛労災病院、住友別子病院、県立新居浜病院での寄附講座開設に向けて愛媛大学及び関係医療機関と協議を進め、地域医療提供体制の確保を図っていく。							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04268_01		
事業名(行目名称)		産科医等確保支援事業費	細事業名	産科医等確保支援事業補助金			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内分娩取扱医療機関		数値	2医院		
	手段(どうやって)	平成21年4月開始、産科・産婦人科医師及び助産師に対して分娩1件あたり10,000円を上限とし、県費(国費の間接補助)1/3補助、市1/3を補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	産科医療機関、産科医が減少している現状を鑑み、医療従事者の確保を図るため、産科医療機関、産科医に対して財政的支援をす行い、身近な地域で安心して出産できる環境を整備する。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			5,000	5,000	3,092	○負担金補助及び交付金 5,000千円 10千円×750件×2/3=5,000千円	
財源	県・国支出金		2,500	2,500	1,546		
	地方債		0	0			
	その他		0	0	0		
	一般財源		2,500	2,500	1,546		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
産科医の分娩取扱補助件数		目標値	1010	750	375	750	550
		実績	707	631	243	464	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>出生数が減少していく中で、県内全体で産科医及び助産師を支える体制を構築するために分娩手当を県とともに補助し、継続的に産科医等の維持確保を図る必要がある。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小				
<p>令和4年度から愛媛労災病院が分娩取扱を中止したため、愛媛労災病院が取り扱っていた分娩件数約100件分を縮小する。愛媛労災病院の分娩取扱件数が、こにしクリニックと新谷ウイメンズクリニックの2医院に分散して、両医院の取扱件数が増えるかと想定したが、10月時点でその傾向がないため、縮小する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>こにしクリニックと新谷ウイメンズクリニックの2院が分娩を取り扱っているが、出産数の減少や医師不足の中、産科の医療体制を維持するため、今後も産科医等の維持確保を図る必要があるため、事業を継続する。</p>							

令和4年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2022	04269_01		
事業名(行目名称)		救急医療施設広域運営事業費	細事業名	救急医療施設広域運営事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	121,211人		
	手段(どうやって)	病院群(新居浜市4病院、西条市6病院)が共同連帯して輪番制により、休日及び夜間において、初期救急医療施設から転送された入院治療等を必要とする重症救急患者の医療を実施する。新居浜市は、事業を実施する市内の医療機関に対し、補助金を交付する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜・西条保健医療圏における第二次救急医療体制の確保を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和3年度 決算額(千円)	令和4年度(千円)			令和4年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 10,781千円	
経費			10,781	10,781	10,781		
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		10,781	10,781	10,781		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和2年度	令和3年度	令和4年度中間値	令和4年度	令和5年度
補助対象救急病院数		目標値			3	3	3
		実績			3	3	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>新居浜・西条保健医療圏における第二次救急医療体制の確保を図ることが出来ている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>第二次救急医療体制の確保を図るため、今後も継続していく必要がある。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和4年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>第二次救急医療体制の確保を図るため、今後も継続していく必要がある。</p>							